

平成30年度実施施策に係る政策評価書

(文30-9-5)

施策名	国家戦略上重要な基幹技術の推進		部局名	研究開発局 開発企画課	政策評価 実施予定時期	令和元年8月	
施策の概要	宇宙・航空・海洋・極域、更には原子力の研究開発及び利用の推進については、産業競争力の強化や経済・社会的課題への対応に加えて、我が国の存立基盤を確固たるものとするものであり、国家戦略上重要な基幹技術として、長期的視野に立って継続的な強化を行う。						
施策に関する内閣の重要施策(主なもの)	「第5期科学技術基本計画」、「東日本大震災からの復興の基本方針」、「福島復興再生基本方針」、「科学技術イノベーション総合戦略」、「統合イノベーション戦略」、「特定放射性廃棄物の最終処分に関する基本方針」、「エネルギー基本計画」、「原子力災害からの福島復興の加速に向けて」改訂」等						
施策の予算額・執行額 (政策評価調書に記載する額) 予算の状況【千円】 上段：単独施策に係る予算 下段：複数施策に係る予算	区 分	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度要求額		
	当初予算	442,497,438 ほか復興庁一括計上分 3,515,597	437,398,025 ほか復興庁一括計上分 3,145,235	445,054,858 ほか復興庁一括計上分 2,753,226	585,417,367 ほか復興庁一括計上分 2,536,878		
		<0> ほか復興庁一括計上分<0>	<0> ほか復興庁一括計上分<0>	<0> ほか復興庁一括計上分<0>	<0> ほか復興庁一括計上分<0>		
	補正予算	32,415,368 ほか復興庁一括計上分0	35,340,677 ほか復興庁一括計上分0	/		/	
		<0> ほか復興庁一括計上分<0>	<0> ほか復興庁一括計上分<0>				
	繰越し等	△9,176,516 ほか復興庁一括計上分0	5,694,595 ほか復興庁一括計上分0	/		/	
<0> ほか復興庁一括計上分<0>		<0> ほか復興庁一括計上分<0>					
合 計	465,736,290 ほか復興庁一括計上分 3,515,597	478,433,237 ほか復興庁一括計上分 3,145,235	/		/		
	<0> ほか復興庁一括計上分<0>	<0> ほか復興庁一括計上分<0>					
執行額【千円】		464,647,328 ほか復興庁一括計上分 3,514,612	473,237,766 ほか復興庁一括計上分 3,144,058	/		/	
		<0> ほか復興庁一括計上分<0>	<0> ほか復興庁一括計上分<0>				

達成目標6	航空科学技術について、我が国産業の振興、国際競争力強化に資するため、社会からの要請に応える研究開発、次世代を切り開く先進技術の研究開発及び航空産業の持続的発展につながる基盤技術の研究開発を推進する。						目標設定の考え方・根拠	判定	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	測定指標	基準値	実績値						
	—	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
①航空科学技術の研究開発における連携数（JAXAと企業等との共同/受託研究数）	—	51	54	53	69	63	40/年	A	【目標の設定根拠】 航空科学技術分野の研究開発において、民間企業等での成果の活用を促し、創出される成果による我が国産業の振興、国際競争力強化に資するため、JAXA中長期計画（H25-H29、H30-R07）等を踏まえて設定。 【出典】 JAXA調べ
	年度ごとの目標値	—	—	40	40	40			
測定指標	基準値	実績値					目標値 毎年度	判定	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	—	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
②航空科学技術の研究開発の成果利用数（JAXA保有の知的財産（特許、技術情報、プログラム/著作権）の供与数）	—	33	33	39	53	54	10/年	S	【目標の設定根拠】 航空科学技術分野の研究開発において、民間企業等での成果の活用を促し、創出される成果による我が国産業の振興、国際競争力強化に資するため、JAXA中長期計画（H25-H29、H30-R07）を踏まえて設定。 【出典】 JAXA調べ
	年度ごとの目標値	—	—	10	10	10			

測定指標	基準	実績			目標	判定	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度） の設定の根拠
	—	H28年度	H29年度	H30年度	毎年度		
③航空分野の技術の国内外の標準化、基準の高度化への貢献	—	<ul style="list-style-type: none"> 国際民間航空機関（ICAO）において超音速機の騒音技術の進捗に関する資料の作成やソニックブーム基準に用いる評価指標の検討等にご貢献しました。 複合材試験評価技術に関し、日本工業規格（JIS）及び国際標準化機構（ISO）に規格・標準の提案を行うなど、国内外の標準化・基準化にご貢献しました。 	<ul style="list-style-type: none"> 国際民間航空機関（ICAO）における超音速機の騒音基準策定において、離着陸騒音推算ツールを策定メンバー間で相互検証を行うなど、基準策定検討にご貢献しました。 複合材試験評価技術に関し、日本工業規格（JIS）及び国際標準化機構（ISO）に提案した規格が制定されるなど、国内外の標準化・基準化にご貢献しました。 	<ul style="list-style-type: none"> 低ソニックブーム設計機体騒音低減量評価を行うなど、国際民間航空機関（ICAO）の基準策定検討にご貢献しました。 複合材試験評価技術に関し、国際標準化機構（ISO）に提案した規格が制定されるなど、国外の標準化・基準化にご貢献しました。 航空機搭載型晴天乱気流装置に関し、国内メーカーの海外での標準化活動を支援しました。 	公正中立な立場から航空分野の技術の標準化、基準の高度化等にご貢献する取組を積極的に行う。	A	<p>【目標の設定根拠】 航空科学技術分野において、国際競争力強化の観点から、産業界と連携した迅速かつ的確な国際標準化戦略が重要であるため、JAXA中期計画（H25-H29、H30-R07）を踏まえて設定。</p> <p>【出典】 JAXA業務実績等報告書等</p>